

「これだけすごい現場で仕事ができるのはボクらの誇り。一生、心に残ります」。この現場はあと半年だ=47階上部の塔屋で



左 官 (オオタ)

太田 正夫さん (32)

今年10月からリーダーの会長として、「職人さんが仕事のしやすい環境づくり」に努める。中学、高校時代は卓球の選手。高3で国体に出場した腕前だ。20歳で父が営む左官の会社に、志ぐに行かされたのは、志

給料だけで会社とつながってれば、よそにいい収入の仕事があれば、移ってしまう。だが、心がつながってれば大丈夫、という考え。「父も東京からこっちに来たとき、十数人の職人さんが付いて来た。心がつながっていたからでしょう」

竹中JVの面々や、高橋さんや水野さんらとコースを回ることも多い。「みんな仕事のすごい経歴を持っておられる。いい先輩です。生涯の友達を得られたと思っています。財産です」

高さ247メートルの「ミッドランドスクエア」。超高層ビルは、東京や大阪には多い。一方、名古屋にはまだ極めて少ない。このため、建設にあたっては、設計、施工はもとより、現場の作業員も、東西から実力のあつる歴戦の雄がはせ参じている。地元の名古屋勢も実力派ぞろいだ。さまざまなかポジションで活躍する職人の思いは。

## 若い仲間、いい先輩 心のつながり大切に

午前5時15分に愛知県一宮市の自宅を出る。太田正夫さん(32)は、自らが取締役を務める同市木曾川町の父の会社に、職人たちとマイクロバスに乗り、午前6時20分ごろ、ミッドランドスクエア建設現場に着く。

左官の仕事は地味だ。コンクリートを流し込んだ跡は、凹凸があり、面は粗い。それをコテで平らに仕上げる。床を、階段を、壁面を仕上げ

20代が3分の1いることだ。太田さんも30代前半。「若い人たちと友だち兼仕事の仲間として付き合えるんですよ。40代になったら、18歳とか20代とつながるのはむずかしい。ボクが若いから今できること。強みです」

世界淡水水族館(岐阜県各務原市)の現場やセントレア(中部国際空港)駐車場もこなした。今年6月、ゴルフを始めた。ナゴヤドーム(名古屋市中区)建設に参画したころ、当時JVの工事部長だった、黒田英親さん(56)に竹中工務店IIに「ゴルフやらないかん。(交友の)幅が広がる」と言われていたのが実現した。黒田さんは現在、ミッドランドスクエア建設現場の総括作業所長。

摩スペイン村(三重県志摩市)建設現場だった。「1年生。コテに材料がうまく載らない。モノを運ぶにしても、スポーツとこの仕事では力の使い方が違う。体ができてないってことで